令和七年度
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

1 問題は、一から四までであり、11ページまで印刷してあります。
2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
4 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

釧路新聞社

一

次の問いに答えなさい。（配点　28）

問一　(1)、(2)の――線部の読みを書きなさい。

(1)　塩分を過剰にとる。

(2)　姉が私の言葉を遮る。

問二　(1)、(2)の――線部を漢字で書きなさい。

(1)　国際会議の話題がソクホウで流れる。

(2)　子猫が足元にヨってきた。

問三　(1)、(2)の漢字と同じ部首が使われている行書で書かれた漢字を、それぞれア～エから一つ選びなさい。

(1)　煮

ア　

イ　

ウ　

エ　

(2)　趣

ア　

イ　

ウ　

エ　

問四　次の文の□に当てはまる表現として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

彼は誰にでも優しい。ところが、□。

ア　自分自身に対してはとても厳しい

イ　他人の立場で考えることができるからだ

ウ　多くの人から感謝されている

エ　思いやりのある行動ができるということだ

釧路新聞社

問五　次の文章を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

ある人、五月雨の晴れ間に、里づたひの道をゆく。月は浮雲（うきぐも）の薄きに包まれ、芝生露敷いて、貫きとめぬ玉[1]の数は、崑山（こんざん）もかくやとおぼしきに、眺めもいとど長き江を南向きてゆく。芦（あし）もまばらに刈る沢のあやめも分かぬところに、堤を沿ふて白犬あり。礫（つぶて）をもつて追へばひたもの逃ぐ。静かにゆけば犬も静かに、止まれば犬も止まれり。かくて追ふと思ひつつ十四、五町ゆく。一声ほゆる事もなし。それより江の堤には沿はず、我ゆく道は横なりしに犬見えずなる。こはいかにと又元の方へ戻りて見れば犬あり。[2]不思議の思ひをなすに、何の別の事もなし。濁り水に曇りし月の影、映ろひしなり。犬と思ひしときは月と見えず。月と合点して、なにほど犬に見なさんとせしかども、犬とはかつて見えざるなり。一念の趣（おもむ）くところ異なものにて、十四、五町迷へり。知りて後は、迷ふて見んと思ひしかども、迷はれずと語れり。

（注）崑山――中国の伝説上の山。
町――長さの単位。一町は約一〇九メートル。

（「宿直草」による）

(1) ――線1「玉」とは何のことですか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　五月雨の晴れ間　　イ　薄雲がかかった月
ウ　芝生の上の露　　エ　沢に咲くあやめ

(2) ――線2「不思議の思ひをなすに」とありますが、「ある人」は、ここではどのようなことを不思議に思ったのですか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　まるで崑山のような美しい景色が川に沿って広がっていること。
イ　土手沿いの道をしばらく歩く間、前を行く犬が一切鳴かないこと。
ウ　進む道を変えると姿を消した犬が、元の道に戻ると姿を現すこと。
エ　川の水は濁っているのに、月がとてもきれいに映っていること。

(3) この文章の内容に合うものを、ア～エから一つ選びなさい。

ア　犬の正体が何であったのかがわかった後は、もう進むべき道を迷うことはなかった。
イ　犬だと思っていたものが月の光だとわかると、月の光は二度と犬には見えなかった。
ウ　白い犬を月の光だと見間違えるような奇妙な体験は、一途（いちず）な思い込みから生まれた。
エ　道に迷ってしまったことで、伝説上の山にいるような不思議な犬に出会うことができた。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。（配点　36）

「表現」とはどのようなものなのでしょうか。ここでは、「表現」や「表現すること」とはどのようなものであるかをまず考え、それから子どもの表現を考えてみることにします。

まず、「表現」という言葉の意味を調べますと、『広辞苑』では、「心的状態・過程または性格・志向・意味など総じて精神的・主体的なものを、外面的・感性的形象として表すこと。また、この客観的・感性的形象そのもの、即ち表情・身振り・動作・言語・手跡・作品など。表出」と記されています。平たく言えば、内なるものを外へ表すことであると言えます。つまり自分の感情、思考の過程や結果などを、何らかの媒体を介して、他者へ伝達することです。このとき、自分と他者とを媒介するものが色や形などの造形要素であれば、それは造形表現となります。また、文字や言葉が媒体であるならば、文章表現、言語表現となり、音やリズムであるならば音楽表現、身振り、手振りならば身体表現となります。表現媒体は単独で機能することもありますが、演劇などを考えますと、様々な表現媒体が複合的に機能している例もあることがわかります。

さて、表現は媒体を介した他者への伝達であると言いましたが、表現したい、相手に伝えたいという意識がそれほど明確でない場合でも、表現行為は成り立ちます。例えば、泣く、笑う、怒るといった行為は感情表現ですが、私たちは自分が悲しい（おかしい、腹立たしい）という感情を誰かに伝えるために、泣いたり、笑ったり、怒ったりするのでしょうか。これらは「思わず泣き出した」とか「ついカッとなった」というように、反射的にあらわれてしまうものです。「あらわす」というよりも、むしろ「あらわれる」という感じの方が適切でしょう。このように、伝達の意識をもたず反射的にあらわれる表現を、「表出」と呼んで区別することもあります。

また、表現には、伝達の目的をもつ表現とそうではない表現があります。例えば、手紙は相手に読んでもらうことを前提にして、メッセージを紙面に書きつづるものですが、反対に、自分自身の日々の心の動きを記す日記のようなものは、人に読まれることを目的としないものです。歌手は歌うことを通して、他者に何かを伝えますが、カラオケで私たちが歌う場合は、人に聞いてもらうことをそれほど目的としてはいません。ここでは伝えることよりも、表すことそのものが目的化されていると言えるでしょう。そして、文章を書くことや歌を歌うといった表現行為によって、気持ちを安定させたり、ストレスを発散しています。したがって、表現は単に何かを伝えるという伝達の目的ばかりでなく、表現を行うことによって、自分の精神を充足させるという目的をもっていると言うことができます。

このように、一口に表現と言っても、伝達媒体の種類、伝達の意識や目的の相違によって、様々な場合が考えられます。それは、子どもの表現についても言えることです。なぐりがきをしている子どもたちは、なぐりがきによって何かメッセージを伝えようとしてクレヨンを動かしているわけではありません。紙の上でクレヨンを握った手を動かし、その軌跡を残すというなぐりがきの表現行為そのものを楽しんでいると考えられます。子どもには見る者（鑑賞者）を想定したり、見る人がどう受けとめるかなどということは意識にありません。したがって、なぐりがきは「表現」よりは「表出」の側面が強いといえます。

また、なぐりがきの段階を過ぎて、何かしら具体的なものを描けるようになった子どもたちの絵は、徐々に「表現」の側面が強くなっていきます。だからといって、子どもたちが明確な伝達の意思をもって表現しているとは言い切れません。自分の好きなものを描いて、「お絵か

き」を楽しんでいる子どもの姿を見ていると、描くことや描きながらイメージを膨らませると[2]いう行為、つまり表現そのものを楽しい遊びの一つとして、取り組んでいる様子がうかがえます。

子どもの絵は、「へたくそな」絵や「へんてこな」絵ではありません。大人の目から見れば、「何を描いているのかわからないじゃないか」とか、「実物と違うじゃないか」などと言いたくなるかもしれません。しかし、子どもの造形表現、子どもの絵は、子どもの表現の文脈から生まれた絵なのです。表出・表現行為に対する喜びや遊びの豊かさ、彼らの認識世界がありありと示されたたいへん魅力的なものなのです。そして表出・表現の喜びは、子どもだけでなく私たち大人にとっても、精神的な充足感を得るために、大切な役割をもっています。このように、[4]子どもの表現は、彼らの絵に表された発達段階はもとより、「表現」というものの意味をより深く考えるとき、生きていく上での重要な要素となっていることがわかります。

表現活動をする上で、想像力を働かせて頭の中に何かしら具体的な（あるいは抽象的な）イメージを浮かべることはとても大切なことです。そのイメージを色や形で表すことが造形表現活動であり、色や形として表された絵や彫刻を見て、イメージをたどることが鑑賞活動であると言えましょう。

子どもたちは、自分の日々の暮らしの中での様々な体験をもとに、イメージを形成していきます。このイメージの形成過程を、内田信子（のぶこ）氏は次のように説明しています。それは、「子どもはそれまでに見たり聞いたりした経験や印象を記憶の中から取り出し、それを加工していく。この過程では知覚した経験や印象を諸要素に分解し、新たに作り上げようとする想像世界についての目標に合わせて修正し、次にその修正した諸要素を連想関係で結びつけ、精神イメージにまとめあげる」という過程です。そして、このイメージ形成の契機、きっかけを「楽しい、嬉（うれ）しい、悲しいなどの情動が高まったとき」としています。さらに、このイメージ形成にかかわって表現手段が重要な役割を果たすことを、「ことばや音符、体の動きには、ある規則性に基づいて時間的因果（いんが）的配列をつくりだすという特徴があるため、経験からとりだされた素材に秩序を与えるはたらきをするのである。これらの表現手段によって頭の中のイメージを外化し表現しようと試みることを通して、イメージがしだいに具体化されていく」と述べています。

イメージの形成は精神的な作業であり、子どもの内部で行われるものです。一方、表現媒体に合わせて表現を行っていく、すなわち絵や音楽や文章などの具体的な形式に表していく作業は、子どもの外部で行われると考えてよいでしょう。しかし、右の引用にも述べられている通り、表現媒体の形式はすでに子どもの内部で行われるイメージの形成とその具体化に深くかかわっていることがわかります。したがって、[5]表現はただ単にイメージの結果としてあるだけでなく、イメージを形成する過程においても、重要な役割を果たしていると言えるでしょう。

（佐々木宰、福井凱将「原体験としての造形―イメージの形成と遊びとしての表現」による）

問一　――線1、2の読みを書きなさい。

問二　この文章で、『広辞苑』から言葉の意味が引用されている効果を説明したものとして最も適当なものを、**ア**～**エ**から選びなさい。

ア　筆者の考えの根拠として言葉の客観的な意味が示されることで、筆者の考えが間違っていないことがより明確になる。

イ　言葉の一般的な意味を確認してから、段階的に論が展開されることで、筆者の考えが理解しやすくなる。

ウ　言葉について様々な解釈が紹介されることで、筆者の考えの妥当性を検討しながら読み進めることができる。

エ　辞書における言葉の意味と筆者の考えが比較できることで、筆者の考えが特殊なものではないことが印象付けられる。

問三　――線1「『あらわす』というより……感じの方が適切でしょう」とありますが、「あらわす」と「あらわれる」の二つの動詞の関係と同じ関係になるように、次の□に当てはまる動詞を書きなさい。

聞く ―― □

問四　――線2「表現には、伝達の目的をもつ表現とそうではない表現があります」とありますが、「そうではない表現」について、次のようにまとめるとき、□①、□②に当てはまる文中の表現を、それぞれ十一字以上、十三字以内で書き抜きなさい。

表現の目的が□①□②ことにあり、誰かに何かを伝達するようにされた表現。

問五　――線3「なぐりがきは『表現』よりは『表出』の側面が強いといえます」とありますが、「表現」より「表出」の側面が強い例として最も適当なものを、**ア**～**エ**から選びなさい。

ア　先生に促されて、地域に向けて案内状を書く。

イ　朝聞いたCMソングが頭の中で何度も流れる。

ウ　休日に公園を散歩しながら、ふと鼻歌を歌う。

エ　舞台のラストシーンでむせび泣く演技をする。

問六　――線4「子どもの表現は、彼らの……重要な要素となっている」とありますが、筆者は、どのような理由から、子どもにとって表現が生きていく上で重要な要素となっていると考えていますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　表現とは頭の中でイメージしたものを具体化することだが、子どもはなぐりがきから具体的なものをしだいに描けるようになることに喜びを見いだしているから。

イ　一般的に、思考の過程や結果を外部へあらわすことが表現行為であるが、子どもにとっては、表現しようとする思考の過程そのものが喜びとなっているから。

ウ　表現は、自分以外の人にメッセージを伝えることを目的とする場合がほとんどだが、子どもの表現も、誰かに喜びの気持ちを伝えることが目的となっているから。

エ　一般的に表現とは、自分の感情や思考などを他者へ伝達することだが、子どもにとっては、表出することや表現することそのものが喜びとなっているから。

問七　――線5「表現はただ単にイメージ……果たしていると言える」とありますが、筆者がこのように述べるのは、子どもがイメージを形成する過程において、表現がどのように役割を果たしているからですか。表現がそのように役割を果たす上での表現手段の役割に触れ、八十五字程度で書きなさい。

左の枠は、下書きに使って構いません。解答は必ず解答用紙に書くこと。

240 220 200 180 160 140 120 100 80 60 40 20

釧路新聞社

三

次は、中学生の白川さんが、夏休みの課題で「地域のつながり」について調べることになり、地域食堂を訪ねているときの会話の一部です。これを読んで、問いに答えなさい。（配点　16）

（登場人物
藤田さん――白川さんの幼い頃からの知り合いで、地域食堂で調理を担当している。
吉井さん――地域食堂の近所に住み、趣味で作った野菜を提供している。）

藤田さん　今日の夕食は、吉井さんの畑で採れたトマトを使ったハヤシライスよ。どうかしら。

白川さん　トマトの酸味と甘さのバランスが絶妙でとてもおいしい。さすが藤田さん。

藤田さん　お口に合ってよかった。この味は、私の料理の［①］があって、さらに［②］があったからこそ生まれたのよ。

吉井さん　そんな風に言ってもらえてうれしいな。そろそろトウモロコシが収穫できると思うから、次はトウモロコシを使った料理をお願いね。

白川さん　その料理も食べてみたい。ところで、吉井さんは農業を営まれているのですか。

吉井さん　いえいえ、定年退職してから、趣味で作った野菜を、ここで使ってもらっているんですよ。

白川さん　そうだったのですね。この地域食堂は毎週水曜日に開かれているとのことですが、毎週こちらに来ているのですか。

吉井さん　そうですね。ほぼ毎週来ています。

白川さん　実は私、夏休みの課題で「地域のつながり」について調べることになって、知り合いの藤田さんにお願いして、こちらにおじゃましています。よかったら、この食堂に関わっていて、普段感じていることを教えていただけますか。

吉井さん　いいですよ。ここに来るようになって二年たちますが、外を歩いているときに笑顔であいさつを交わせる人が増えたんですよね。顔見知りの人が増えると生活していて安心します。それに、自分が作った野菜が皆さんの役に立つのはうれしいことです。ここで生まれる地域の人とのつながりは、私の励みになっています。

藤田さん　同じ地域に住む人たちと自然にあいさつができるって、それだけで安心しますよね。

白川さん　なるほど。

藤田さん　まさにこの食堂は、人と人とのそういうつながりが生まれればという考えで始まったのよ。

白川さん　そうだ。藤田さんは、この食堂が始まった頃からボランティアをしているのでしたね。食堂が始まった頃のことについて教えてください。

藤田さん　そうね。ここが始まって二十年たつけれど、当時の自治会長さんが、隣人同士のつながりが弱くなっていることに危機感を抱かれたの。そして、単身世帯の高齢者の方が地域の色々な方と話す場が必要だということで始まったのよ。ちょうどその頃、私も家族で引っ越してきたばかりで、これから生活する地域を知るために関わり始めたの。今では、高齢の方以外にも、小さなお子さんのいるご家族が利用されることも増えたわ。ボランティアの仲間も少しずつ増えて、特に、吉井さんのように退職された方々が積極的に支えてくれているのよ。

白川さん　なんだかとても心が温まる話ですね。地域のつながりは、

問一　会話の内容を踏まえ、①に当てはまる語として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。また、②に当てはまる表現を、十字程度で書きなさい。

ア　舌
イ　指
ウ　腕
エ　目

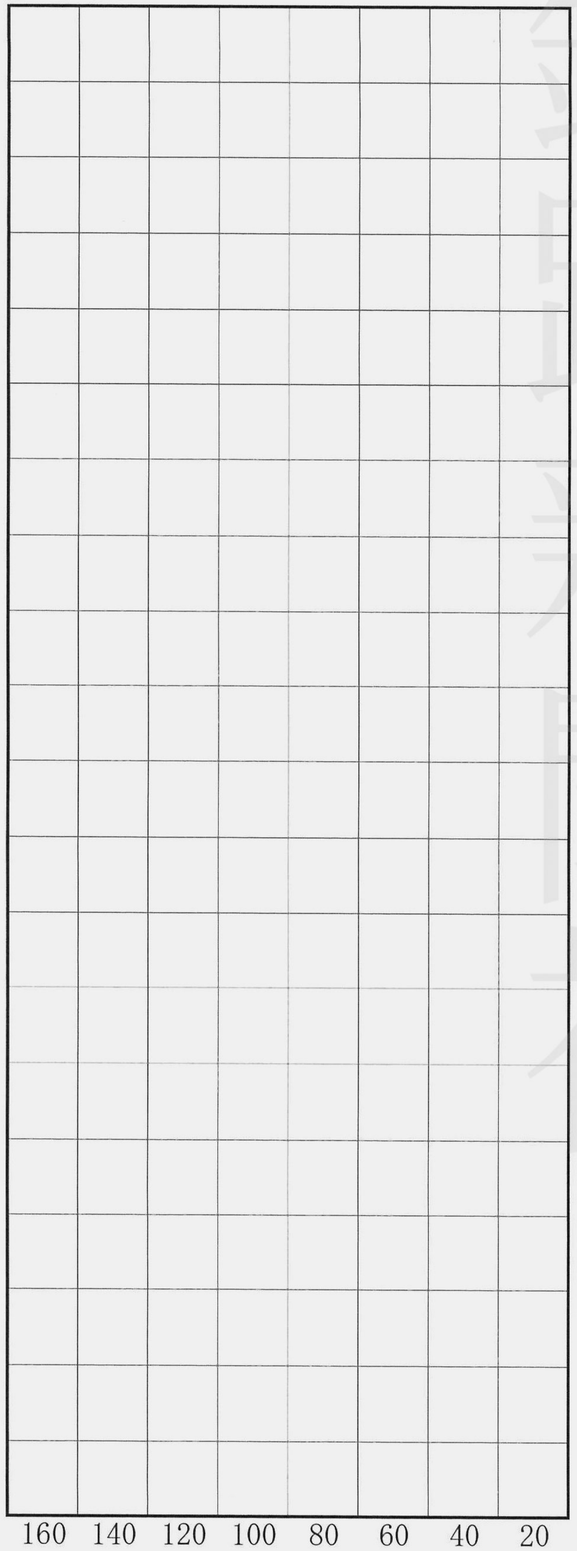
問二　――線「来ているのですか」を、尊敬語を使って敬意を表す表現に書きかえなさい。

問三　会話の［　　］で囲んだ白川さんの発言について説明したものとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　事前に調べた内容を示すことで、正しい情報を引き出そうとしている。
イ　自身の立場を示すことで、専門的な立場で答えてもらおうとしている。
ウ　自身の見解を示し質問することで、具体的に答えてもらおうとしている。
エ　訪問の意図を伝えることで、意図に応じた答えを聞こうとしている。

問四　白川さんは、会話の［　　］に、吉井さんと藤田さんの話を聞いて、地域食堂と地域のつながりの関係について気付いたことを発言しようとしています。［　　］に当てはまる表現を、七十字以上、九十字以内で書きなさい。ただし、白川さんの質問に対する、吉井さん、藤田さん、それぞれの回答の内容を踏まえること。

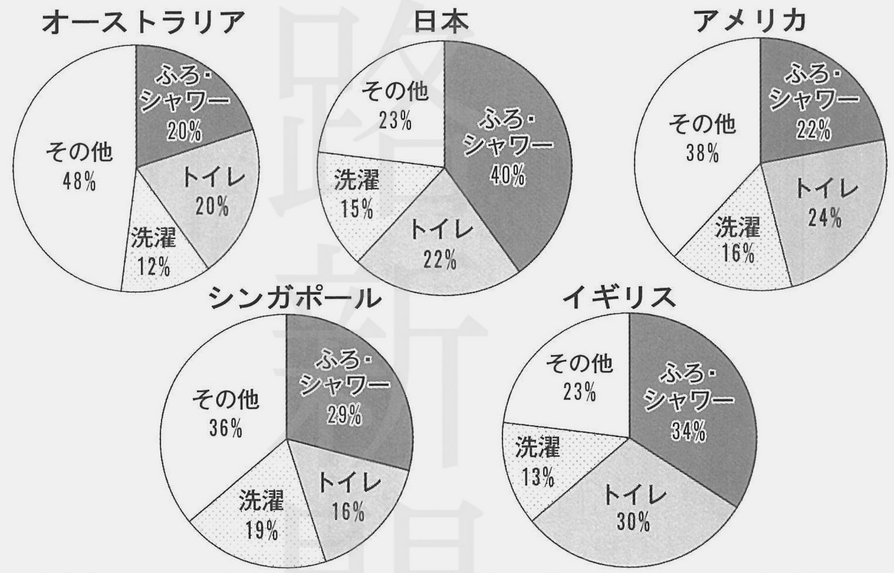
左の枠は、下書きに使って構いません。解答は必ず解答用紙に書くこと。



四 次は、中学校の国語の授業で、「節水」を作文のテーマに選んだ浅川さんが、作文を書くために集めた資料（A）と、作文の下書き（B）です。これらを読んで、問いに答えなさい。（配点 20）

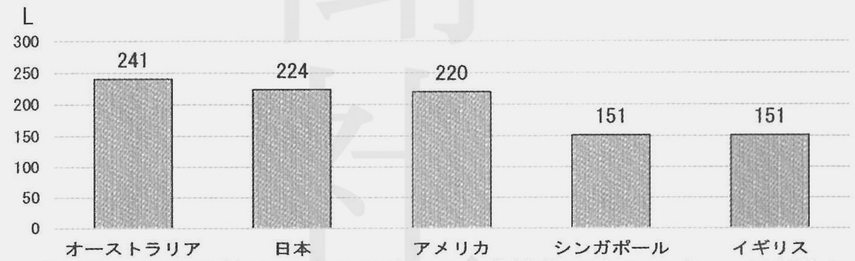
（A）資料

① 生活用水の用途の割合



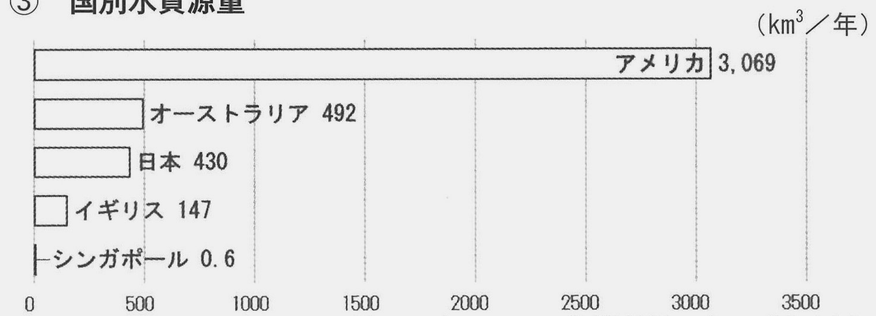
「水道の国際比較に関する研究」（水道技術研究センター 2017年）より

② 一日一人当たりの生活用水使用量



「水道の国際比較に関する研究」（水道技術研究センター 2017年）より

③ 国別水資源量



グローバルノート（国際統計のウェブサイト）より

（B）下書き

地球は「水の惑星」と呼ばれており、地球の表面の三分の二が水で覆われています。しかし、大部分は海水であり、私たちの生活で使用できる淡水はごくわずかしか使えないのです。その多くは北極や南極の氷河や地下水として存在し、河川や湖等の淡水は地球上の水のわずか〇・〇〇八％といわれています。ア 今後、世界の人口増加、社会経済の発展、都市の拡大などにより、地球の水資源の量や質に様々な問題が生じることが指摘されています。イ 特に、世界の人口一人当たりの水資源の量は、地球温暖化による気候変動の影響などから、二〇五〇年までに、二〇一〇年の四分の三になると予想されています。ウ

こうしたことから、各国の生活用水や保有する水資源量について調べ、「水道の国際比較に関する研究」の中から、二つの調査結果を見つけました。エ 「生活用水の用途の割合」と「一日一人当たりの生活用水使用量」を見ると、日本は［　X　］。そこで私は、この二つの国で生活用水の用途の割合は似ているのに、なぜ使用量に大きな差が出るのか、その理由を使える水の量に着目して考えました。グローバルノートというウェブサイトの「国別水資源量」を見ると、日本の水資源量は、［　Y　］。

日本は、蛇口をひねればいつでも安全な水が出てきます。普段の生活でも、水の大切さを意識することはあまりありません。しかし、水は限りある資源です。そのことを忘れずに、節水を行っていくことが大切です。

問一　（B）の――線部は、適切な表現に書き直す必要があります。内容を変えないように書き直すとき、□に当てはまる表現を書きなさい。

私たちの生活で使用できる淡水は□。

問二　浅川さんは、伝えたいことをより分かりやすく、読み手がイメージできるよう、次の文を（B）に加えることにしました。どこに加えるのが最も適当ですか。（B）のア～エから選びなさい。

地球上のすべての水の量をふろ一杯分に見立てた場合、暮らしの中で利用できる水の量は、大さじ一杯分なのです。

問三　（B）の□X、□Y に当てはまる表現を、次の条件にしたがってそれぞれ四十字以上、五十字以内で書きなさい。

条件１　□X は、（A）の①と②から読み取ったことを関連させて書くこと。

条件２　□Y は、（A）の③をもとに、生活用水の使用量に差が出ることの背景として考えられることを、作文のテーマである「節水」と関連させて書くこと。

問四　浅川さんは、普段の生活の中で節水のために取り組もうと思うことを（B）の□に書くことにしました。あなたが浅川さんになったつもりで、次の資料（C）を用いて書きなさい。

（C）資料

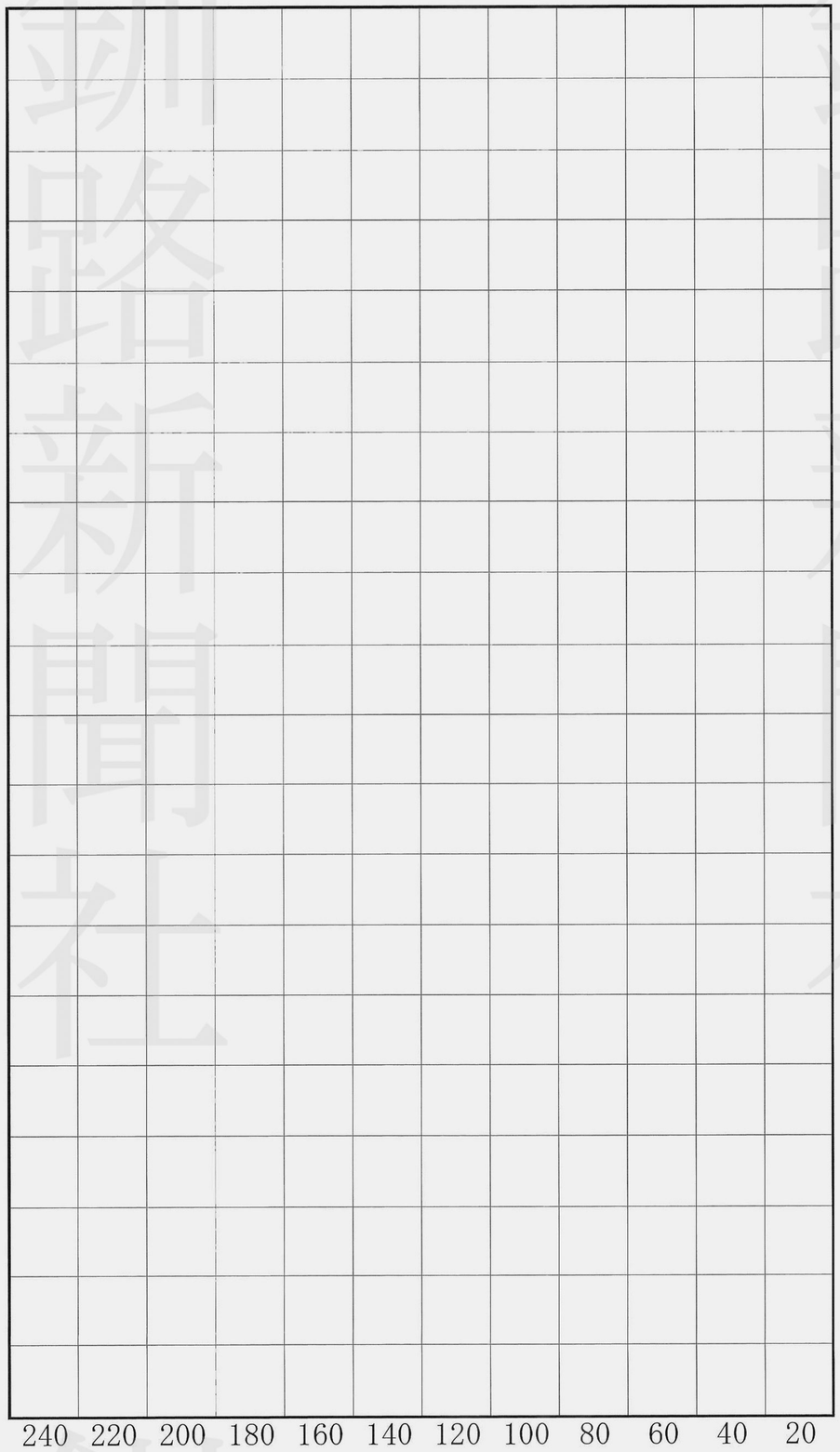
用途別使用量の目安

用途	使い方	使用量
歯みがき	30秒間流しっぱなしの場合	約６リットル
洗面・手洗い	１分間流しっぱなしの場合	約12リットル
シャワー	３分間流しっぱなしの場合	約36リットル
食器洗い	５分間流しっぱなしの場合	約60リットル

東京都水道局のウェブサイトより

釧路新聞社

左の枠は、下書きに使って構いません。解答は必ず解答用紙に書くこと。



釧路新聞社